

本願寺 御歴代門主シリーズ

その十

本願寺第十一代宗主

顕如(けんによ)上人(一五四三〜一五九二年)

顕如上人は天文十二年(一五四三)に本願寺第十世証如(しょうによ)上人の長男として誕生され、天文二十三年(一五五四)八月、石山本願寺(現在の大阪城の地)において、父である証如上人を戒師としてお得度されました。

その翌日、証如上人ご往生の後を承け、本願寺第十一代の法灯を継職されました。従来本願寺では親鸞聖人にならい京都の青蓮院において得度するのが通例でありましたが、この顕如上人以降は、歴代宗主のお得度式は本願寺にて行われるようになりしました。

顕如上人が継職当時の本願寺は、経済的疲弊に陥った朝廷に対し、証如上人のとき以来、積極的に助力しておりました。そしてその褒賞として永禄二年(一五五九)に本願寺は「門跡」の勅許を得て、翌々年には顕如上人は若干十九歳にして「僧正」に補されました。

一方寺門の繁栄とともに広範の村落に門徒衆を形成していた本願寺は、戦国の争乱の中、天下統一に躍起になる戦国大名との衝突が避けられなくなりしました。



本願寺第十一代宗主 顕如(けんによ)上人

そしてついに元亀元年(一五七〇)、顕如上人二十八歳の時、本願寺は織田信長と対して石山戦争の火ぶたを切り、この戦いにおいては、雑賀衆(さしかいゆう)をはじめ諸国の門徒が本願寺側に協力しましたが、天正八年(一五八〇)三月、本願寺は大坂退去の誓紙を信長に届け戦闘を休止、八月に退去し、十一年におよぶ戦乱はついに終結しました。この後、顕如上人は本願寺の寺基を鷺森(さぎのもり)・和歌山・貝塚(大阪)・天満(大阪)へと移されましたが、最終的には秀吉により、天正十九年(一五九二)に京都七条堀川の現在の地に移基されました。

しかし、ようやく本願寺が安住の地を得た翌年の文禄元年(一五九二)十一月二十四日(旧暦)、顕如上人は急病により四十九歳にてご往生されました。

※『雑賀衆』とは、戦国時代に紀伊国北西部の雑賀荘一帯の諸荘園に居住した国人・土豪地侍・商人集団たちが結合した武装集団のこと。

※参考文献 福岡光超著／「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「報恩講」(善教寺本堂)

十二月 二日(月) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 池尻智道師(熊本県蓮照寺)

\*送迎マイクロバスを運行します。

\*お接待当番地区 井之邑地区

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要(善教寺本堂)

十二月十六日(月) 午後一時半

\*毎月十六日に本堂において勤めております。

「除夜会」(善教寺鐘樓堂)

十二月三十一日(火) 午後十一時四十五分

\*鐘樓堂にて除夜の鐘を撞きます。

「元旦会」(善教寺本堂)

一月 一日(水) 午前七時

「御正忌法要」(善教寺本堂)

一月十一日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 鳥鼠恵華師(廿日市市原立善寺)

\*送迎マイクロバスを運行します。

ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)

